

マルチプルインテリジェンスを軸とした体系的 ESD・SDGs カリキュラムの構築  
～中学段階における学内外の連携強化による体験的プロジェクトを通して～

1 はじめに

本校は、東京都千代田区三番町に位置する今年で学院創設100年の節目を迎える私立中高一貫校である。本校の創設者である大江スミは、建学の精神に KVA (Knowledge 知識、Vatue 徳性、Art 技術) を掲げ、社会で自立する女性の育成を目指してきた。この精神は、近年教育界でも話題となっているブルームが提唱する目標分類学 (Bloom's Taxonomy) における教育目標の領域 KSA (Knowledge、Skill、Attitude) にも通ずるものがあり、ESD にも示される持続可能な社会の担い手にとって必要な資質・能力であると考えている。この古くも新しい本校の建学の精神を育むために具現化された教育活動が ESD を軸とした多様なカリキュラムである。また、中高一貫校の特性を生かし、持続可能な社会の担い手の育成のために、6 年一貫の体系的なカリキュラムを設定している。併設大学への進学者が年々増加していることを踏まえ、中学・高校・大学の10年間、つまり人生の半分近くを過ごす千代田区三番町を生徒たちの「第二のふるさと」にするミッションのもと私立学校でありながら地域密着のプロジェクトを実施している。これらのプロジェクトは各学年で10年程前から段階的に計画、実施されてきた。それらを体系的に再構築したものが現在のカリキュラムである。

本校のプロジェクトの多くは総合的な学習の時間において実施されている。生徒の多様な学力を尊重し、評価することを目的としてハワード・ガードナー (Howard Gardner) が提唱する「マルチプルインテリジェンス理論」(Multiple Intelligences Theory) を学校が設定する目標に据え、目標に準拠したルーブリック等を活用して評価している。中学段階では振り返りシート等、言語的知能に左右される評価対象だけでなく、ポスターや記事、動画、プレゼンテーションなど多岐

にわたる学習成果を評価できるよう活動内容を工夫して実施している。

図 マルチプルインテリジェンス



出典) ハーワード教育大学院 教授 Howard Gardner 氏  
未来教育会議実行委員会「人一生の育ちレポート」(2018年)より引用

表1 本校のプロジェクトで育成を目指すインテリジェンス (●を重視、○は関連)

	中1中2PJ	中3PJ
言語的知能	○	○
論理的知能	○	○
空間的・視覚的知能	●	●
身体的・運動的知能		
リズム・音楽的知能		○
対人関係の知能	●	●
内観の知能	○	○
自然・環境の知能	○	○

従来重視されてきた言語的知能、論理的知能に加えて、その他の知能の育成を重視している

## 2 実践内容

### (1) “こころ”と“まなび”をTSUNAGU プロジェクト（中学1年生・2年生）

「心と学びをつなぐ」、このプロジェクトを体験した生徒たちが名付けたプロジェクト名であり、ESD を象徴することばであると考えている。このプロジェクトでは、中学1年生・2年生が協働でチームを編成し、地域で働く大人に対して取材を行い、そこで得た働きがいや地域に対する想いをポスターで表現し、プレゼンテーションを行う。取材内容の検討から当日の取材先へのアポイントメント、ポスターデザインの構図などはすべて生徒の手によって行われる。本校周辺は、多くの国際機関や官公庁、オフィスビルがある一方、創業100年を超える老舗店舗も点在し、多様性に富んだ地域である。これらの店舗への取材を通して、生徒たちは千代田区の伝統や魅力、そこで生きる大人たちの“想い”を知ることとなる。また、異年齢集団で遂行するプロジェクトはそれぞれが自身の役割を自覚し、緊張感を持ちながらも女子中学生らしい温かな雰囲気の中で進められていく。入学間もない生徒たちがタテ(学内:他学年)のつながりとヨコ(学外:地域)のつながりを意識する機会となっている。

プロジェクトのまとめには、取材報告と制作ポスターを題材にしたプレゼンテーションを実施している。取材で受け取った地域に対する想いや課題をSDG sの17の目標と関連付けて考察・発表することで答えのない問いに真剣に向き合う姿勢を身につけていく。

写真1



写真2



写真3



写真1 取材のようす（老舗豆腐店）

写真2 完成ポスター（緑茶インストラクター）

写真3 ポスターを店舗にお届け（老舗甘酒屋）

約3ヶ月の長期プロジェクトでの学内外の継続的な交流を通して、生徒たちは“心のつながり”を体感していく。活動を通して、持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を体験的な活動を通して心や体で受け止めることの重要性を教えてくれる活動であると考えている。

### (2) SDG sクリエイティブプロジェクト

（中学3年生）

中学1年生、2年生での学習成果をもとに中学3年生では地域をESD、SDG sの視点でより深く捉えるプロジェクトを実施する。自身がソーシャルイノベーターとして世界を変革するための第一歩を踏み出していく。

主に学校周辺でSDG sに取り組む企業に取材を行い、そこから見出された社会課題を解決するための方法をチームで協力して考察する。中学3年生における最初の成果物は取材記事である。中学1年生、2年生で発揮された生徒たちのマルチプルインテリジェンスを生かしつつ、高校での活動を見据えて、成果を言語化することを目的として設定している。

写真4



写真5



写真4 取材の様子

写真5 取材記事

※取材記事の作成はThink the earthが提供する作成フォームを使用

取材記事作成後は、中間報告を経て取材後に生徒が感じ取った社会課題の中から一つを選んで調査、研究を行う。プロジェクトの途中段階で生徒たちの必要に応じて企業や団体が主催するプレゼンテーションスキルアップ講座や社会課題や解決策を深掘りするためのミーティングを実施している。生徒たちはさまざまな大人との出会いの中で社会課題を解決することの必要性やその難しさを肌で感じ取っていくようになる。

写真6



近隣企業でのSDGsミーティングに参加

表2 生徒が設定した主な社会課題

テーマ	社会課題
食	パートナーシップで育む共存共栄
食	Let's eliminate food loss
LGBTQ+	「一人の人間として見ていく」社会の実現
街づくり	秋葉原のタバコポイ捨て削減のために
ジェンダー	医師における女性の雇用格差
つくる責任	すべてのロスをなくすために

本校が家政学（主に衣食住）を軸とする女子校であることから、それらに関連するテーマを設定している生徒が多い。特筆すべきは取材先の企業の業種、職種について、衣食住や女性に関連するものに限定していないにも関わらず（結婚式場や不動産デベロッパー、ホテル等）、生徒たちが興味・関心に応じて、自身の足もとから自主的に本校の特性に関連した社会課題を選定している傾向が伺えることである。一見、無関係にも思える複数のリソースを掛け合わせることで起こるイノベーションに今後期待したい。

また、2022年度からはこれらの成果を動画にまとめコンテスト(Sustainable Award)に応募する予定である。3年間で養われたマルチプルインテリジェンスがどのような形で発揮されるのか、今から楽しみである。

### (3) 全校生徒が参加する学習発表会

中学の体験型プロジェクトにあわせて、高校では年間を通じて、「エキスパート探究」(高校1年生、衣食住に関連した社会課題の解決)、「ジグソー探究」(高校2年生、自身の興味や希望進路に関連する社会課題の解決)において調査・研究を行っている。毎年3月には中学1年生から高校2年生が一同に会し、1年間の学習成果を発信する発表会(Global Presentation Award 以下GPA)を実施している。この活動は単に学習成果の発表にとどまらない。高校生はかつて自身が体験したプロジェクトを下級生がどのように受け継いでいるかを確認し、過去の自分に想いを馳せながら自身の現在地を確認する機会となる。また中学生はこれから自身がどのような学習活動を行っていくのか、将来を見据える学びの機会となっている。GPAでは、全校生徒の投票で決定する最優秀賞(GPA)や外部企業・団体が選定する特別賞等が授与される。1年間の学習成果を共有、相互評価することによって生徒たちは「自分は何ができるようになったか、次に何ができるか」を感じ取っていく。

GPAの様子は保護者、卒業生、プロジェクトに協力頂いた企業・団体にもオンライン等で公開され、本校の活動や成果を広く社会に発信、還元する機



会となっている。この2年間は、コロナウィルス感染症拡大のためオンラインのみでの公開であったが、今年度からはオンライン、対面のハイブリッドでの実施を予定している。さまざまな活動が制限される機会が多かった生徒たちが、この“リアル”な機会を通じて、学びに更なる化学反応を生み出すことを期待している。

写真7



写真7 GPA プレゼンテーションの様子

写真8



写真8 GPA 表彰式

行われるようになった。また、この活動は、本校のESD・SDGsカリキュラムで定める目標における問題点（マルチプルインテリジェンス 身体的・運動的知能の育成を担保する活動の不足）を補う役割も果たしており、本校の求める生徒の資質・能力の育成にとっても非常に有意義な活動であると考えている。

写真9



写真9 プロジェクトの振り返りイベント

(横断幕は体育係が中心に毎年制作)

### 3 成果と課題

ESD・SDGsの体系的なカリキュラムを構築して5年ほどが経過した。ESDが重視する「3つのつながり」の視点で成果と課題を検証する。

#### (1) 教材のつながり

総合的な学習の時間での体系的な取り組みを中心として学校行事や各教科での取り組みに大きな変化が生まれた。

その典型的な例が本校の冬の風物詩ともなった体育の時間での持久走である。国連UNHCR協会が主催する「難民と進む20億キロメートル」(2020年8月 コロナウィルス感染症拡大に伴いグローバルアクションとしては終了。本校はその後も独自に実施している)の趣旨に賛同し、難民が1年間に強いられる移動の総距離、20億キロメートルを全国の仲間と協力して目指す活動である。難民の苦難に思いを馳せながら活動することで、自分の学びや行動が世界を変えていくことにつながる実感を持つことができる取り組みである。持久走のプログラムにあわせて道徳の授業では国連UNHCR協会主催のワークショップを中学全学年合同で実施しており、ESD・SDGsのプロジェクトを軸としてさまざまな教科で横断的な活動が

その他にも学外の協力も得ながらゲーミフィケーションの手法を生かした体験型ワークショップ等をプロジェクトと関連付けて実施することで学びを深める取り組みが学年、教科で行われるようになり、生徒の資質・能力の深化に貢献している。

写真10



写真10 SDGsカードゲーム(高校1年生)

写真11



写真11 Beyond SDGs人生ゲーム(中学生)

特別活動(キャリア教育)の一環として併設大学の学生と合同実施

#### (2) 人とのつながり

中学の早い段階から社会に触れ、地域と密接な関係を持ちながら本校のプロジェクトは進められてきた。これらの取り組みは少しずつ地域社会の中でも共有、評価されてきている。2021年度には複数企業・店舗・団体の協力のもと、本校の学習成果を報告した動画を地域の大型ビジョン、さらにはメタバース空間で公開して頂いた。プロジ

エクトの成果を学内にとどめることなく、地域・社会へ積極的に配信していくことで、開かれた学校としての役割の一端を担うことができたと考えている。

写真 12



秋葉原（東京都千代田区）の大型ビジョンで放映。生徒とともに見学

また、本プロジェクトで協力いただいた企業等からはプロジェクト終了後もつながりを持ち、地域で行われたトークディスカッションや SDG s イベント等にお誘い頂き、地域連携の輪はさらに広がりを見せてきている。今後、さらに連携を深めるとともに地域からの多様な要望に応える学内の体制構築もより一層進めていくことが課題である。

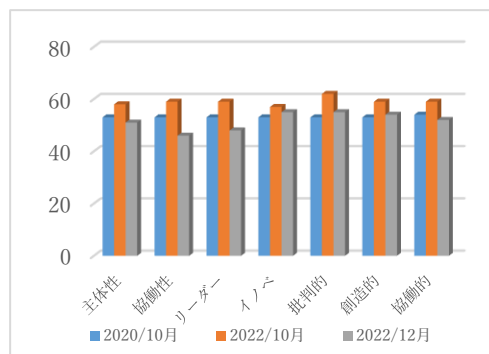
### （3）能力・態度のつながり

本校ではマルチプルインテリジェンスを軸に総合的な学習の時間における学校の目標を設定している。これらの能力や態度（コンピテンシー）が生徒にどの程度身につけているかを検証する一つの方法として Institution for Global Society が提供する評価ツール「Ai GROW」を活用しており、本校の育成する目標に準拠した活動の教育効果を定量化し、測定している。

表 3 Ai GROW 診断結果抜粋

2020 年度 入学生経年推移（学年中央値）

コンピテンシー	2020/10	2022/10	2022/12
主体性	53	58	51
協働性	53	59	46
リーダーシップ	53	58	48
イノベーション	53	57	55
批判的思考力	53	62	55
創造的思考力	53	59	54
協働的思考力	54	59	52



コンピテンシー中央値の推移を検証すると中学1年生から中学2年生にかけて資質・能力が向上していることが伺える。中学1年生、2年生の協働チームでのプロジェクトにおける学びの共有は、本校が目標としている資質・能力の育成に効果的であることを確認することができた。一方で、中学3年生で各コンピテンシーの下降が見られる結果となった。今後、諸活動における振り返りやルーブリックに基づく生徒自己評価等を一層充実させ、中3学年でのプロジェクトのあり方を高校での活動への接続、連携も踏まえて検討していきたい。

最後に、本校の学びを示すパンフレット『しあわせ学問 家政学』に「私のしあわせは、私からはじまって、私が広げて育てるもの、守るもの、分かち合うもの」という一節がある。誰かの幸せを願う心の豊かさこそが持続可能な社会の実現につながると信じて、また、今回の ESD 大賞の受賞を励みに生徒たちとともにさらに学びを深めていきたいと考えている。